



新年明けまして  
おめでとうございます  
余市町長  
嶋 保

謹んで新春のお喜びを申し上げます。  
平成30年の新しい年を皆様と共に健やかに迎えることができましたことを大変うれしく思っております。

昨年を振り返りますと、景気はゆるやかに回復傾向であるとはいえ、未だ足取りは鈍く感じられ、今後も国の更なる景気対策等に期待をしております。

本町においては、農業では、台風などによる大きな被害はなかったものの、低温や降雨などの天候不順により、全体としては平年を下回る状況となりました。

水産業では、サケの漁獲量が増えたものの、その他は漁獲量が平年並みや落ち込みが見られ、総体としては厳しい状況となりました。

観光面では、「マツサン」放映から3年半が経過し、観光客の入込みは落ち着きを見せておりますが、6次産業推進の成果として、ワイナリーの増加や、余市町産のブドウを使ったワインが各種コンクールで高い評価を得、さらには航空会社との国際線ファーストクラスでも提供されるなど、世界的にも認知度が上がっており、本年予定されている北海道横断自動車道余市インターチェンジ供用開始とも相まって、今後、多くの観光客が本町を訪れるとともに、ひとの流れも大きく変わることが予想されます。

そうしたことから、余市町まち・ひと



新年明けまして  
おめでとうございます  
余市町議会議長  
中井 寿夫

希望に満ちた平成30年の新春を迎え、心からお慶び申し上げます。

町民の皆様には、日ごろから議会活動に対する温かいご理解とご支援を賜り、町議会を代表し厚くお礼を申し上げます。

顧みますと昨年は、九州地方を中心に多くの台風等に伴う自然災害により、住宅や農地への浸水被害等、毎年のように激甚災害の指定を受けるような災害が発生しており減災社会の実現に向けた対策が必要であると痛感しているところであります。早期の復旧を願いますと共に被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

さて、国においては、成長戦略として「未来投資戦略2017」を策定し、新しい健康・医療・介護システムの構築による健康寿命の延伸や物流の効率化と移動サービスの高度化による交通事故の減少、移動弱者の解消につながる移動革命の実現、快適なインフラ・まちづくりによる人材不足の解消等の施策を進めており、我が国の構造的な問題である少子高齢化や地方においても強い経済実現等の諸課題が早期に解決されることを強く望んでいるところであります。

一方、本町では、余市町まち・ひと

しごと創生総合戦略を策定し、3つの柱をもとに移住・定住を促し若者を中心とした雇用の確保や安心して子供を産み育てられる環境など各種施策を推進しております。

本町のワイナリーの栽培量は全国最上位に位置し、ワイン特区を活用した事業やワイナリーリズム事業の展開、また本年は待望の北海道横断自動車道余市ICの供用開始が予定され、道央圏を初め道内各地への移動時間も短縮されることにより、町民の利便性の向上や各事業者におきましては流通機能の向上等、さらには観光客の入込み等による交流人口の増加が大きく期待されているところであります。

議会といたしましても、人口減少問題、少子高齢化が進む中、その役割は今後益々重要となってきましたが、行政の諸課題の解決に向けて積極的に取り組み、町民の代表として議員一同全力を挙げてその責務を全うしていく所存でありますので、尚一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年が町民の皆様にとりまして、健やかで幸多い年となりますよう心からお祈り申し上げます、新年のご挨拶いたします。